

公募研究 A02 (課題番号 09202203)

近世日朝間における漂流民送還の研究

- 実態分析を通じた送還制度の史的再検討と漂流民送還過程にみる日朝相互認識 -

研究代表者：池内敏・鳥取大学・教育学部・助教授

1. 研究項目：A02 環シナ海地域間交流史

2. 研究課題名：近世日朝間における漂流民送還の研究

実態分析を通じた送還制度の史的再検討と漂流民送還過程にみる日朝相互認識
(課題番号 09202203)

3. 研究期間：平成9年度(1997年)

4. 交付研究費：平成9年度 1,300千円

5. 研究組織(氏名・所属機関・部局・職)

(研究代表者)池内 敏：鳥取大学・教育学部・助教授

6. 研究目的

近世日本列島に朝鮮人が漂着した場合、無事に本国に帰れるような送還制度が現実に機能し、そのような状態が当時の朝鮮人によっても知られていた。したがって、単なる海難事故に留まらない交流が漂流・漂着の姿を借りて為されたと推測する余地も生じてくる。

近世日朝間における漂流民送還の実態分析を深めることを通じて、そうした推測の当否を判断する手がかりを得たい。

7. 研究経過

東京大学史料編纂所・国立国会図書館等で対馬藩・薩摩藩の朝鮮人漂流関係史料を調査し、池内敏「近世朝鮮人漂着年表(稿)1599~1872」(1996年、私家版)の改訂作業を進めた。

8. 研究成果の概要

池内敏「近世朝鮮人漂着年表(稿)1599~1872」(1996年、私家版)の改訂版を作成した。すなわ

ち、調査を通じて新たに知りえた史料等により各漂着事件に関するデータを更新し、たとえば近世朝鮮人の日本列島漂着事件数を総数 971 件 9768 人と改めた。また、漂流民送還に携わった漂流民護送使の人名確定を進め、漂流海域の推定作業を行って漂流・漂着の相互関係について旧稿よりも精度を高めた。さらに旧稿には無かった近世日本人の朝鮮漂着関係年表を付した。今後の研究の基礎データとした。

このほか、池内敏「近世における朝鮮漂流民と鳥取藩」(『鳥取に流れ着いた朝鮮人』、鳥取県立博物館、1997 年 7 月) 池内敏「朝鮮人漂流民の送還と幕府の対応」(『別冊歴史読本 江戸の危機管理』、新人物往来社、1997 年 11 月) を発表した。